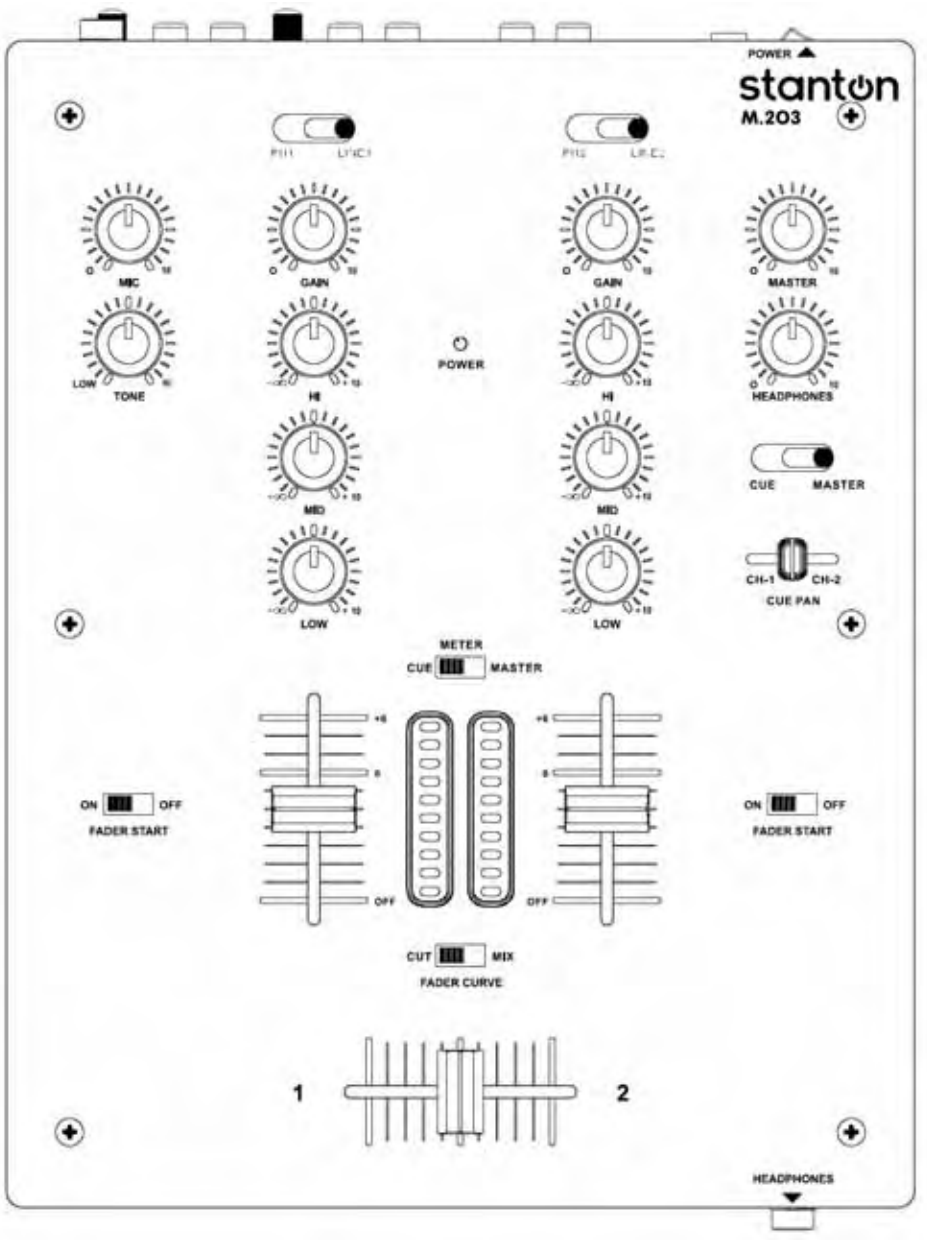
M.203 取扱説明書


POWER
stanton
M.203
MIC
GAIN
GAIN
MASTER
LOW
TONE
POWER
HI
HI
HEADPHONES
MID
MID
CUE
MASTER
LOW
LOW
CH-1
CH-2
CUE PAN
METER
CUE
MASTER
ON
OFF
FADER START
ON
OFF
FADER START
CUT
MIX
FADER CURVE
1
2
HEADPHONES

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

CAUTION
RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意　感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

⚠	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
  感電やショートの恐れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。

- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
  - ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  - ○ 異物が内部に入ったとき
  - ○ 製品に異常や故障が生じたとき

  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。

- 本製品を分解したり改造したりしない。

- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
  大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。

- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。

- 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。

- 濡れた手で本製品を使用しない。

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。

- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。

- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。
  付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
  故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
  本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 本製品の隙間に指などを入れない。
  お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。
- 地震時は本製品に近づかない。
- 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
  本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
//www.korg.co.jp/KID/

目次

1 イントロダクション 4

1.1 ようこそ！ 4

1.2 はじめに 4

2. 接続端子 4

3. 各部の名称と機能 5

3.1 トップパネル 5

3.2 フロント・パネル 7

3.3 リアパネル 8

4 M.203 の操作方法 9

4.1 トップパネル・コントロール 9

4.1.1 フェーダー・スタート 9

4.1.2FADER CURVE（クロスフェーダーカーブ） 9

4.1.3　レベル・メーターに表示する信号を選択する 9

トラブルシューティング 10

スペック 11

1.1 ようこそ！

この度は M.203 をご購入いただきましてありがとうございます。
M.203 を使い始める前に、以下の同梱品をご確認ください。

・M.203 本体
・電源アダプター
・ユーザーマニュアル（本書）
・保証書

製品パッケージの中にすべてが入っていることを確認できましたら、この製品について解説していきます。

1.2 はじめに

M.203 はこの価格帯で最も実用性に優れた 2 チャンネル・パフォーマンス・ミキサーです。直感的に使用可能なすっきりしたレイアウトは多数のプロ D J と共同で開発され、ビギナーの DJ からベテランのプロ DJ までもを納得させる内容を目標に開発されました。
主な特徴
・頑強なスチール構造
・ソフト・スタート機能による電源投入時のポップ音の排除
・FET アイソレーテッド「カット」機能搭載のアジャスタブル・クロスフェーダー
・phone/line 切り替え入力 x 2 、fader start 機能搭載ライン入力 x 2
・コンプリート・キル仕様 3 バンド EQ (-64 dB)
・CUE-PAN フェーダー搭載
・トーン・コントロール付きマイク入力
・RCA 出力（メイン / レコーディング）
・耐久性に優れた 45mm 長の Alpha クロスフェーダー搭載
・10 セグメント x 2 の LED レベル・メーター
・CUE、MASTER メーター切り替え

M.203 のベーシックな機能を理解したところで、さっそく始めてみましょう。

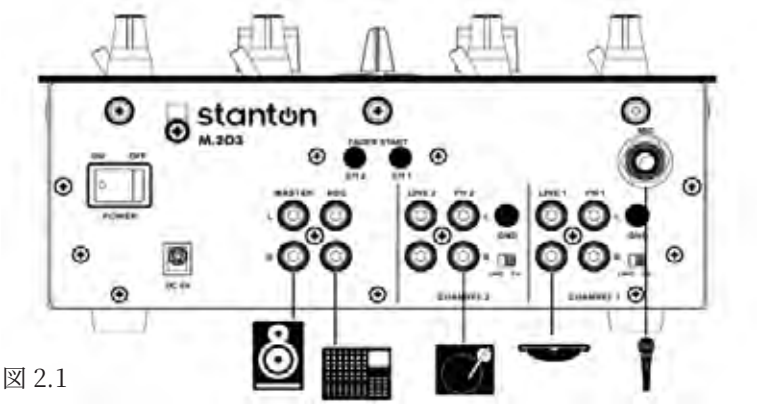


図 2.1

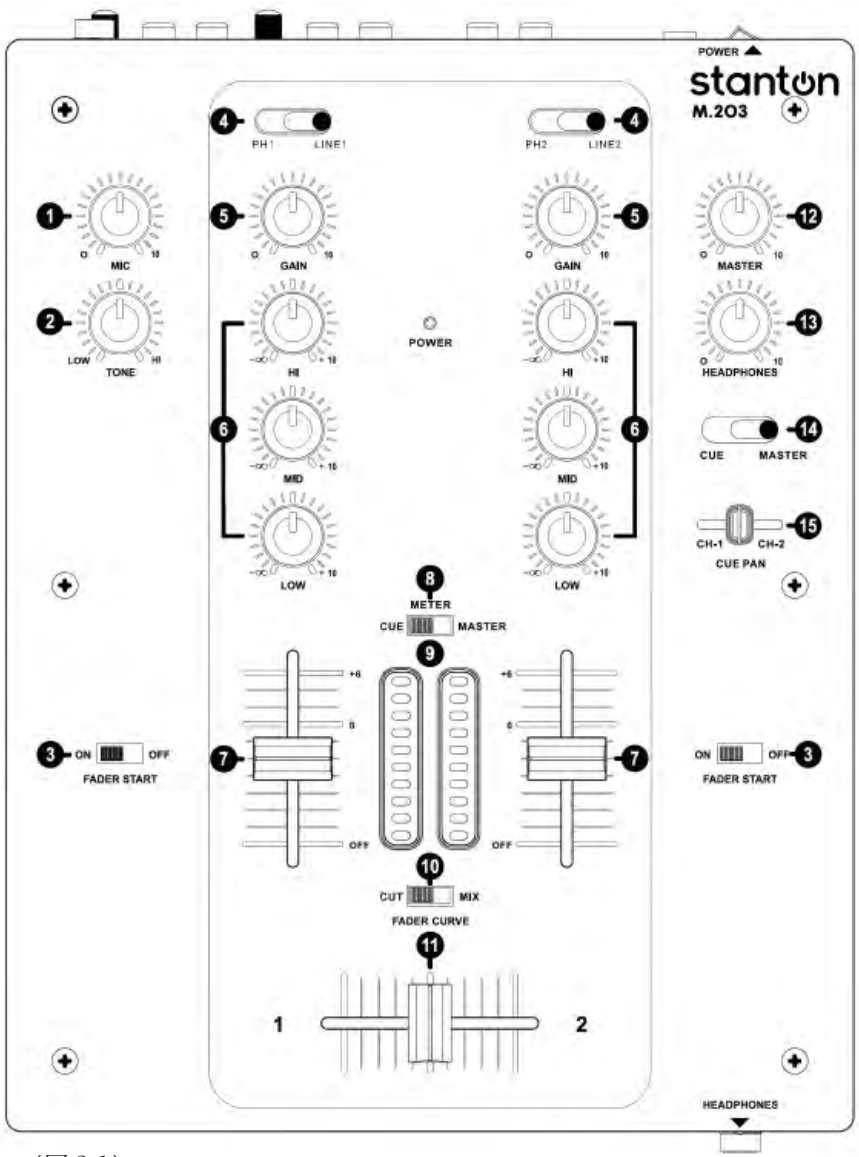
2. 接続端子

各機器を M.203 へ接続する前に、「安全上の注意」のページ、そして次にあげるガイドラインをよくお読みください。
次のセットアップ図（図 2.1）をご覧ください。
すべてのフェーダーが 0 に、そして MASTER ノブも 0 に（ノブは反時計回りで左一杯が 0 の位置です）、そして接続するすべての機器の電源はオフにしておいてください。
まず、すべての入力用機器を接続します。次にマイク、そしてモニター用ヘッドフォンを接続します。
（ヘッドフォン端子はフロントパネルにあります。図 3.2 参照。）

最後に MASTER（ステレオ出力）にパワーアンプ、またテープデッキなどの録音用機材を接続します。M.203、及びその他の機器の電源ケーブルを接続します。そして、電源をオンにする順番ですが、次の通りにします。ターンテーブルや CD プレーヤーのような入力機器の電源をオンにします。そして M.203 の電源をオンにし、最後にパワーアンプの電源をオンにします。
電源をオフにする時には、以上の手順とは逆に、まずパワーアンプの電源をオフにし、続いて M.203、そして入力機器という順番になります。

3.　各部の名称と機能

3.1　トップパネル（図 3.1）



（図 3.1）

1. Mic Volume/GAIN（マイクボリューム / ゲイン）：マイク入力の音量を調節します。
2. Mic Tone（マイクトーン）：マイク入力の音質を調整します。（ローブースト、ハイカット、ハイブースト、ローカット）
3. Fader Start /FDR START（ フェーダースタート）：フェーダースタート機能をオン / オフします。フェーダーが使用されたときに、接続された CD プレーヤーが再生するようにトリガーできます。
4. インプットセレクタースイッチ：フォノ（PH）またはライン（LN）信号を切り替えるスイッチです。
5. GAIN（チャンネルゲイン）：フォノ（PH）またはライン（LN）のボリュームをプリフェーダーで調整します。
6. EQ（チャンネルイコライザー、LOW MID HI）：フォノ（PH）またはライン（LN）信号の音質を 3 バンドのイコライザーで調整します。
7. チャンネルフェーダー：フォノ（PH）またはライン（LN）の出力レベルを調整します。
8. METER（メーターセレクトスイッチ）：メーターで表示する信号をプリフェードとマスターアウトで選択します。
9. レベルメーター：メーターセレクトスイッチで選択された信号のボリュームを表示します。
10. FADER CURVE（フェーダーカーブ）：このノブで、クロスフェーダー曲線を LONG から SHARP の間で調整することができます。
11. クロスフェーダー：チャンネル 1 と 2 のマスターに出力するボリュームを調整します。
12. MASTER（マスターレベル）：全体の音量を調整します。
13. HEADPHONES（ヘッドフォンレベル）：ヘッドホンの音量を調整します。
14. キューソース（PRE、POST、MASTER）：このスイッチは、ヘッドフォンに送るソースを PRE（プリ）、POST（ポスト）、MASTER（マスター）の 3 つの中から選択するものです。PRE と POST の時には、クロスフェーダー（11）の状態をモニターできます。PRE の時には、後述するプリパンフェーダーによって選択された信号はヘッドフォン内ではステレオ信号としてラインフェーダーより前、またはクロスフェーダーより前の状態をモニターできます。POST の時には、ラインフェーダーより前、またはクロスフェーダーの後になります。したがって、ヘッドフォンで受ける信号はクロスフェーダーのポジションに依存します。MASTER の位置では、マスターボリュームの前（フェーダーの後）でモニターできます。これは、マスターボリュームを下げても信号はヘッドフォンでモニターできるということになります。
15. CUE PAN（キューパン）：チャンネル 1 とチャンネル 2 の間のヘッドフォンへの出力を調整します。ミックスの状態やチャンネルフェーダーを上げたり、クロスフェーダーを動かしたりする前のプレビューすることができます。

3.2 フロント・パネル（図 3.2）

1. HEADPHONES（ヘッドフォンアウト）：標準 1/4 インチジャックのヘッドフォン出力です。

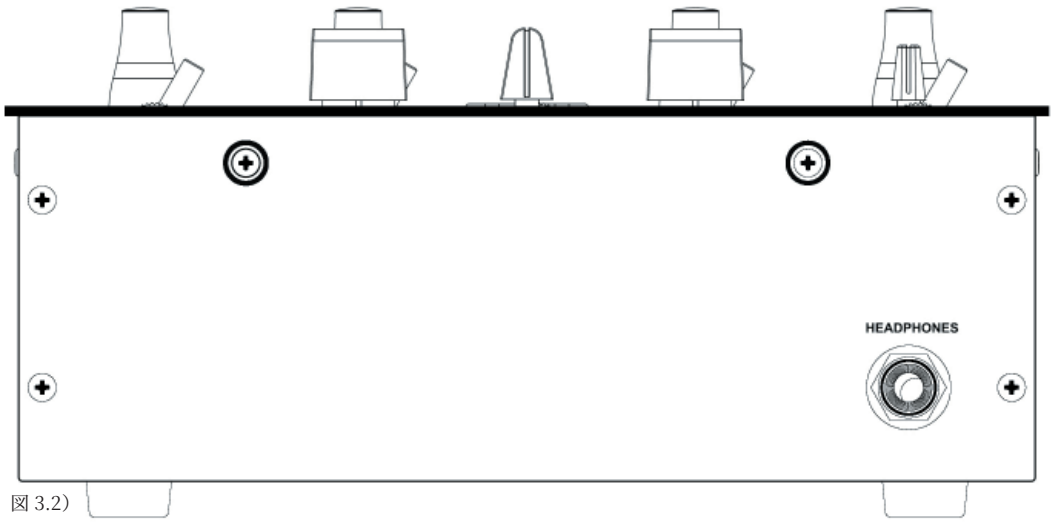
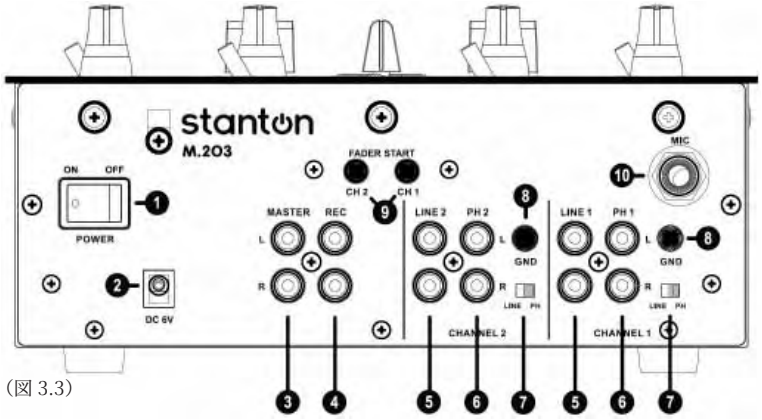


図 3.2）

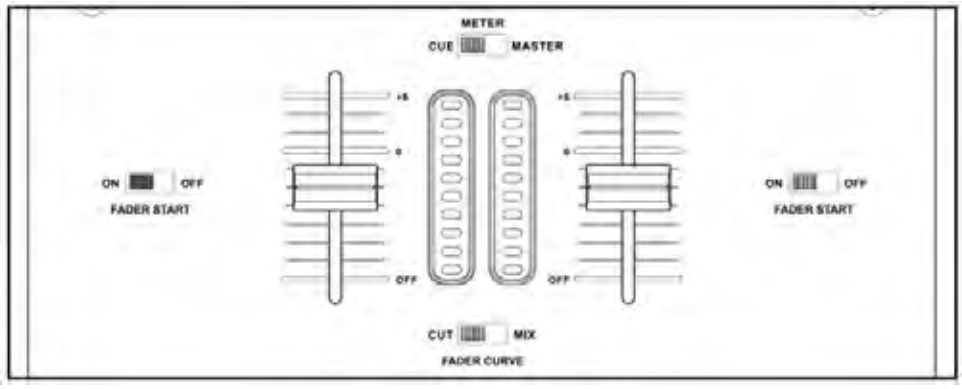
3.3 リアパネル（図 3.3）



（図 3.3）

1. POWER（パワースイッチ）：電源をオン / オフします。
2. DC IN（DC 端子）：付属のパワーサプライを接続する端子です。まずミキサーの電源をオフにした状態でパワーサプライを接続してから、出力端子などに接続してください。
3. MASTER（アンバランスマスターアウト）：家庭用ステレオ、または他の RCA インプットを装備したミキサーなどに接続するための RCA 端子です。
4. REC（レコーディング・アウト）：マスターボリュームコントロールに影響を受けないレコーディング用出力端子です。マスターボリュームが下がっていてもコンピューター、CD、MD デッキ、テープレコーダーなどに録音することができます。
5. LINE（ライン・インプット）：CD プレーヤー、カセットデッキ、カセットデッキ、DAT、レーザーディスク、チューナー、MD、シンセサイザー、ミキサーなどあらゆるステレオのオーディオ機器を接続できるアンバランスの RCA 端子です。モノラルのオーディオソースを接続する際には「Y 字ケーブル」をご使用ください。
6. Line/Phono（ライン、フォノ切替インプット）：ターンテーブル、CD プレーヤー、カセットデッキ、カセットデッキ、DAT、レーザーディスク、チューナー、MD、シンセサイザー、ミキサーなどあらゆるステレオのオーディオ機器を接続できるアンバランスの RCA 端子です。ターンテーブルを接続するときは 7. のスイッチで PH（PHONO) を選択してください。その他のライン・レベルの入力信号を接続するときには LINE を選択してください。
7. LINE/PH（ライン・フォノ切替スイッチ）：6. に入力される信号の種類を切替ます。ターンテーブルを接続するときには PH(PHONO) を選び、内部の PHONO プリアンプを通します。
8. GND（グランドコネクター）：電気的ノイズを防ぐために、一般的なターンテーブルに装備されたアース用ケーブルを M203 のこの端子へ接続してください。一部のターンテーブル（Stanton STR8、150 など）では、この端子に接続する必要はありません。
9. FADER START（フェーダースタート）：この機能を使うためには、CD プレーヤーがフェーダースタート機能に対応している必要があります。またまたクロスフェーダーを使って CD プレーヤーの再生 / 停止を行うためには対応したケーブルも必要になります。フェーダースタート機能を使うためには、フロントパネルにあるフェーダー・スタートスイッチ（3.2 の 1 参照）がオンになっている必要があります。このスイッチがオンになっているとき、互換性を持った CD プレーヤーでは、あらかじめ作成したキューポイントをフェーダーで開始させたり戻したりすることができます。
10. MIC（マイクインプット）：アンバランスの標準フォーン（1/4 インチ）のケーブルでマイクを接続します。

4 M.203 の操作方法



（図4.1）

4.1 トップパネル・コントロール（図 4.1）

4.1.1 フェーダー・スタート：フェーダー・スタートでは M203 のクロスフェーダーで CD プレーヤーの再生をスタートさせたり停止させたりすることができます。この機能を使うには、Stanton C324 のようなフェーダー・スタート機能に対応した CD プレーヤーと専用ケーブルが必要です。この機能を使えば、手に届かない場所にある CD プレーヤーをコントロールしたり、2 つのデッキによるビートジャグルを 1 つのフェーダーで行うことができます。フェーダー・スタートスイッチをオンにすることでフェーダー・スタート機能が有効になります。フェーダー・スタート・スイッチがオンの位置にあるとき、互換性のある CD プレーヤーのあらかじめ指定したキューポイントを再生したり戻したりすることができます

4.1.2FADER CURVE（クロスフェーダーカーブ）：クロスフェーダーのカーブを「CUT」と「MIX」の間で調整します。2 つのソースをフェードさせてるときには「MIX」を選択してください。スクラッチ等の急激な音量変化が必要になる場合は「CUT」を選択します。

4.1.3　レベル・メーターに表示する信号を選択する：このスイッチでレベルメーターに表示させる信号を選択できます。CUE を選択し、CUE FADER を使用すると実際にマスターから出力す以前に演奏を確認することが可能です。MASTER を選択すると MASTER 信号のレベルが表示されます。

トラブル・症状	考えられる原因・対策
音が鳴らない	電源はオンになっていますか？きちんと機器が接続され、さらにインプットセレクタースイッチなどもご確認ください。インプットゲイン、チャンネルフェーダー、マスターアウトなどが上がっているかもご確認ください。チャンネルがクロスフェーダーに割り当てられているかもご確認ください。
ヘッドフォンから音が聞こえない	まずヘッドフォンレベルのノブが上がっているかをご確認ください。また、キューソース（PRE、POST、MASTER）やキューパンの設定もご確認ください。
ノイズが乗っている	マイクが接続されていない場合には、各コントローラーの値を下げてみてください。
マイクの音が聞こえない	マイクのゲインは上がっていますか？コンデンサーマイクをご使用の場合にはファンタム電源が必要ですが、本機にはファンタム電源を供給することはできません。
ラインインプットからの音が歪んでいる	インプットゲインを調整してみてください。さらに EQ の設定も調整してみてください。
フォノインプットからの音が歪んでいる	フォノインプットはターンテーブル専用の端子です。CD プレーヤーなどのラインレベルの機器は接続しないでください。またインプットゲインを調整したり、EQ の設定も調整してみてください。
ヘッドホンからエフェクトの音がモニターできない	FX CUE ボタンを押してみてください。これで問題が解決しない場合、FX ボタンが押されているかをご確認いただき、さらに選択している特定のエフェクトに関連するボタンも押してみてください。
チャンネルフェーダーが思い通りに反応しない	フロントパネルにあるチャンネルフェーダーカーブの設定をご確認ください。
フェーダースタート機能が働かない	お使いの CD プレーヤーはフェーダースタートに対応していますか？またフェーダースタート用のケーブルはお使いになっていますか？フェーダースタートスイッチはオンになっていますか？またクロスフェーダーの位置もご確認ください。
ハムノイズが聞こえる	きちんとシールド保護されている良質のケーブルをお使いください。安価なケーブルはノイズ発生の原因になります。また本機の電源ケーブル、または AC アダプターなどと音声用のケーブルは離してお使いください。
ハウリングする	マイクをお使いの場合、スピーカーやヘッドフォンと離してお使いください。フォノインプットからハウリングする場合には、ターンテーブルをスピーカーなどから離してお使いください。また、スピーカーからの音が大きい状況のときには、共振しにくい場所に置くようにしてください。

1. 電源	AC 100 - 240V, 50/60 Hz, 16 W
2. 寸法 (H x W x D)	10.82 mm x 250 mm x 352.6 mm
3. 重量	4.2 kg
4. 動作試験環境	周囲温度 : 22 +/- 2% 相対湿度 : 65 +/- 5%
5. 入出力インピーダンスと感度 (EQ フラット , ユニティーゲイン (すべてのゲイン、レベルはセンター、フェーダーは最大), FX オフ , 負荷 100K ohm)	
5-1. 入力インピーダンスとレベル	
Line	20K ohm /-10 dBV +/-0.1 dB (316 mV)
Phono	47K ohm /-50 dBV +/-0.1 dB (3.16 mV)
Mic	10K ohm /-50 dBV +/-0.1 dB (3.16 mV)
5-2. 出力インピーダンスとレベル	
Rec	2.2K ohm /-10 dBV (316 mV) +/-2 dB
Master Unbal	1K ohm /-10 dBV (316 mV) +/-2 dB
Phones (Load=32 ohm)	33 ohm /-10 dBV (316 mV) +/-2 dB
6. 周波数特性 : (EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , 100K ohm)	
Line	20 Hz - 20 kHz +/-2 dB
Phono	20 Hz - 20 kHz +2/-3 dB (RIAA)
Mic	20 Hz - 20 kHz +2/-3 dB
7. 全高調波歪み : (EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , 100K ohm)	
Line	0.03% 以下 @1 kHz
Phono	0.1% 以下 @ 1 kHz (等価騒音レベル)
Mic	0.1% 以下 @ 1 kHz (等価騒音レベル)
8. 最大入力 : (1 kHz, THD=1%, EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , 100K ohm)	
Line	+14 dBV 以上
Phono	-26 dBV 以上
Mic	-26 dBV 以上
9. 最大出力 : (1 kHz, THD=1%, EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , 100K ohm)	
Master	+18 dBV 以上 (8.0 V)
Rec	+13 dBV 以上 (4.5 V)
Phones	+4 dBV 以上 (1.58 V) ,32 ohm
10. ノイズフロア : (EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , , W/20 kHz LPF, 等価騒音レベル , 100K ohm)	
Line	-86 dBV 以下
Phono	-75 dBV 以下
Mic	-76 dBV 以下
11. クロストーク : (EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , , W/20 kHz LPF, 等価騒音レベル , マスター = +14 dBV OUTPUT)	
L.R セパレーション	65 dB 以上 @ 1 kHz for LINE and PHONO
チャンネル間	70 dB 以上 @1 kHz for LINE to LINE ,MIC 70 dB 以上 @ 1 kHz for LINE to PHONO
12. EQ 特性 : (ユニティーゲイン , FX オフ , W/20 kHz LPF, 100K ohm)	
Low	10 +/-2 dB, -20 dB @ 70 Hz
Mid	10 +/-2 dB, -21 dB @ 1 kHz
High	10 +/-2 dB, -18 dB @ 13 kHz
13. チャンネルバランス	3 dB 以内、0 ～ -40 dB
14. フェーダーキル : (EQ フラット , ユニティーゲイン , FX オフ , W/20 kHz LPF, 等価騒音レベル , マスター = +14 dBV OUTPUT)	
チャンネルフェーダー	75 dB 以下 @ 1 kHz
クロスフェーダー	75 dB 以下 @ 1 kHz
15. 付属品	
ユーザーマニュアル (本書)	1 部
電源アダプタ	1 個

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの 際に、販売店 が所定事項 を記入 いたしますので、「お買い上げ 日」、「販売店 」等の記入 をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は 再発行致 しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上 げいただい た日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修 理させていただ きます。
ただし、補修用性能部品（電子回路な どのように機能維持のた めに必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受 けすることができませんのでご了 承ください。また、外装部品（パネル など）の修 理、交換 は、類似の代替品 を使用す ることもありますので 、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな？とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みの うえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げ の販売店 、最寄りのコルグ営業所、 またはサービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防 ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご 質問、ご相談について

アフターサー ビスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品 のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客 様相談窓口 へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口　　TEL 03（5355）5056

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
TEL: 03(5355)3537

輸入販売元:KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
WEB SITE: http://www.korg.co.jp/KID/index.html

KORG 本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2　URL: http://www.korg.co.jp/

© 2010 KORG INC.

Printed in Japan